

沖縄「三重の塔」



先の大戦で、苛烈な地上戦が繰り広げられた地、沖縄

沖縄戦では、軍人のみならず、多くの住民が犠牲に

その最後の戦闘の地である「^{まぶに}摩文仁の丘」

「三重の塔」は、この摩文仁の丘（平和祈念公園内）に建立された、
三重県出身の戦没者 約53,000人を祀る慰霊塔です

「三重の塔」の概要

- ・所在地 沖縄県糸満市摩文仁 沖縄県営平和祈念公園「摩文仁の丘」
- ・建立年月日 昭和40年6月26日(令和7年<戦後80年>改修)
- ・合祀者数 約53,000柱
(沖縄戦戦没者2,600柱、南方諸地域戦没者31,300柱、その他地域19,100柱)
- ・設置 三重県戦没者沖縄慰霊塔建立委員会
- ・所有・管理 三重県



毎年11月には、戦没者の御遺族が摩文仁の丘で慰霊式を開催

現在は、「三重県」が引き継ぎ、慰霊式を開催しています

戦後80年となる令和7年の慰霊式には、三重県各地から

御遺族80名が参列されました

○三重県遺族会会長（桑名・伊藤さん）

我々、戦没者の子らも80歳を超え、戦争当時を知る人は少なくなってきました。

三重県各地に残る慰霊碑、各地で開催される追悼式、三重県出身の方々も多く亡くなられた沖縄の「三重の塔」にもぜひ足を運んでいただき、平和を願って亡くなられた方々へ思いを馳せていただけたらと思います。

○遺族代表（四日市・廣田さん）

私たち遺族にとりましては決して遠い記憶ではありません。いつも忘れることのできない戦争でありました。

私の父は、ここ沖縄での激しい戦いの中で、命を落とすことになりました。

父は家から沖縄へ出征するとき、2歳の私を抱き抱えながら、見送る皆さんの前で嬉しそうにしていたとおばから聞かされました。

その父が家族のもとへ帰れなかったことを思うと今でも胸が引き裂かれる思いをいたします。

また、残された母は幼い私を抱え、

辛く、苦しい日々を過ごすことになりました。

このような辛い、苦しい思いを子々孫々まですることのないよう平和であり続けてほしいと願うばかりです。

（令和7年度慰霊式 追悼のことば から）

建立の経過（碑文から）



〔碑文〕

嗚呼 国破れて山河あり。人は逝いてその名をのこす。

すぐる第二次世界大戦において、ここ本土内激戦終焉の地沖繩に祖国の発展を祈りつつ草むす屍と化せられし勇士は申すに及ばず、広く異国の山野にまた南海の孤島に玉の緒絶え給いし本県出身戦没者五万有余の勇士は、三重の男の子の誇りを胸に秘めて祖国日本の守り神世界平和の礎となり給う。その高く尊き勲は鈴鹿の山の嶺より高く五十鈴の川の流れ尽きざる如く末永く称えられん。

この諸霊を祀らんと沖繩戦没者友の会の提唱により、県に三重県戦没者沖繩慰霊塔建立委員会を設置し、広く県民の浄財を集め市町村はじめ各種団体等の協力のもと、一五〇万県民の尽きぬ平和への祈りを郷土の山の仙石に刻みて、ゆかりの地摩文仁の丘にこの碑を建立す。

ここに謹みて慰霊のまことを永く後世に伝うると共に、沖繩と三重県との親善友好に寄与することを願う。

昭和四十年六月

三重県戦没者沖繩慰霊塔建立委員会
会長 三重県知事 田中 覚

令和7年改修着工前の「三重の塔」



(左は手前の石橋付近から撮影したもの、右は慰霊式で式辞を述べる一見三重県知事)

令和7年改修後の「三重の塔」



平和祈念公園



全景（奥側の海沿いの丘陵が「摩文仁の丘」）

「摩文仁の丘」を含む「平和祈念公園」には、戦争の記憶を残すとともに、平和を祈る施設として「平和の礎」「沖縄県平和祈念資料館」「沖縄平和祈念堂」「国立沖縄戦没者墓苑」などがあります
 「三重の塔」とともに、是非お立ち寄りください

平和祈念公園地域

（摩文仁地域）



平和の礎

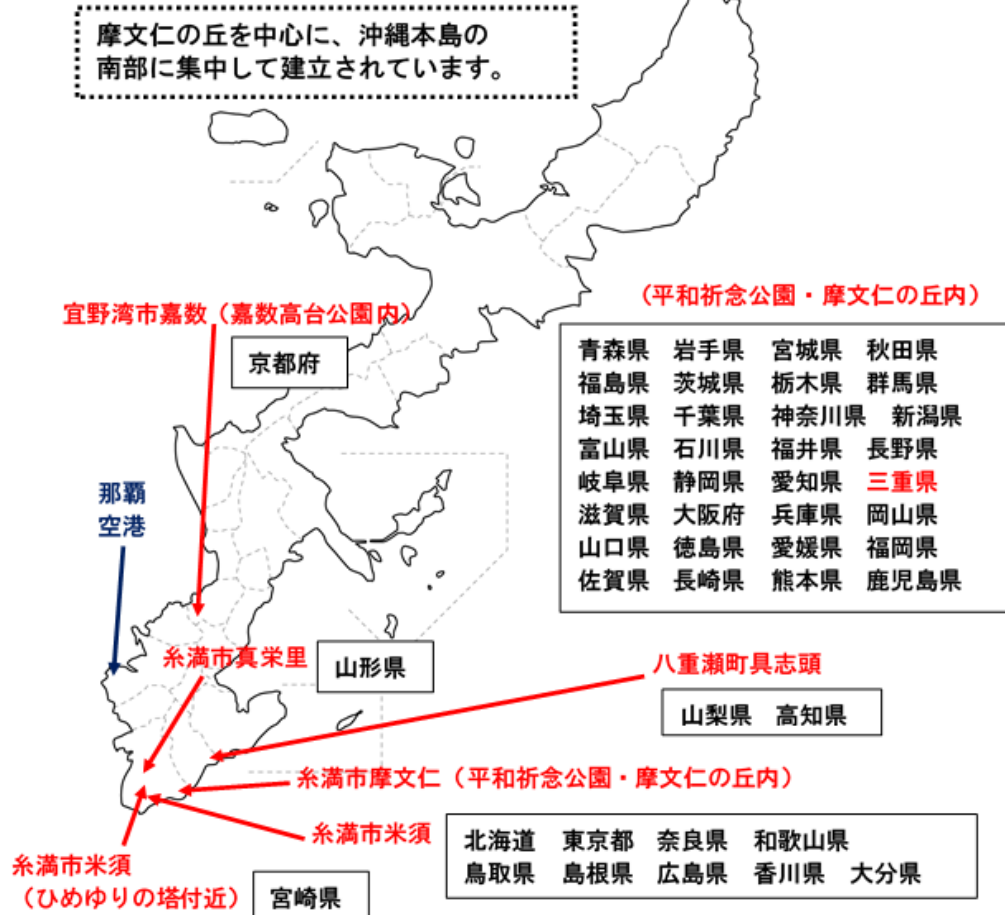


国立沖縄戦没者墓苑

沖縄県各地の都道府県慰霊塔

終戦から約20年が過ぎた昭和40年頃、各都道府県の戦没者を祀る慰霊塔が、平和祈念公園・摩文仁の丘等に建立されました

各都道府県慰霊塔 建立地 概略図



三重県戦争資料館

三重県のホームページ「戦争資料館」では、戦争に関する資料や、三重県の戦争に関する場所、語り部による体験文集などを御紹介しています
よろしければ、こちらも御覧ください

(URL)

<https://www.pref.mie.lg.jp/FUKUSHI/heiwa/index.htm>



三重県 子ども・福祉部 地域福祉課 保護・援護班

〒514-8570 三重県津市広明町13番地

・電話 059-224-3092 ・FAX 059-224-3085

・電子メールアドレス fukushi@pref.mie.lg.jp

令和8年3月改訂